

## 資源分別によるリサイクルの推進について

一廃計画（第三次）では、プラスチックのリサイクルのあり方と雑がみなど古紙類のリサイクル推進が検討課題となりました。これらの品目を中心に、分別収集や集団回収、拠点回収によるリサイクルの推進について検討の視点、考えられる施策の方向性を整理します。

### 1.1 プラスチック類のリサイクル

#### (1) 検討の視点

- 一廃計画（第三次）計画期間中、容器包装リサイクル制度の大きな改正は行われていません。したがって、一廃計画（第三次）策定時点での検討で課題となった、容器包装プラスチックを全て分別収集した場合の施設確保や費用負担は引き続き残っています。
- 区では、一廃計画（第三次）に基づき、トレイ・ボトル類のモデル回収を全区拡大する予定です。しかし、昨年6月から開始したトレイ・ボトル類の回収量は、推定発生量の11%程度の水準となっており、リサイクル率の向上など、期待される効果を得るにはより一層分別の徹底が必要です。

### 1.2 プラスチック類のリサイクルに関する検討経緯

#### (1) 一廃計画（第三次）策定時における検討

一廃計画（第三次）策定時点での検討では、容器包装プラスチックを全て分別収集する案と、トレイ・ボトル類に分別品目を拡大する案を比較検討しました。

その結果、環境負荷の低減、総コストの低減、区民の分かりやすさ、施設や収集体制の確保等を総合的に勘案し、トレイ・ボトル類の分別回収を目指すものとしています。

図表 1 一廃計画（第三次）策定時点での比較検討結果

比較検討項目	全面分別（ケース 1）	分別品目拡大（ケース 2）
(1) ごみの減量効果	◎ 16 年度比ごみ減量率 18.4% リサイクル率 27.6%と大幅な上昇	○ 16 年度比ごみ減量率 10.1% リサイクル率 20.2%と小幅な上昇
(2) 環境負荷の減少効果	◎ 年間約 3 万 1 千トンの CO <sub>2</sub> 排出量削減効果	○ 年間約 3,600 トンの CO <sub>2</sub> 排出量削減効果
(3) 区民にとっての分かりやすさ、協力度合い	△ ・ 分別方法、出し方の十分な説明が必要 ・ 集積所の管理が必要	○ 品目を限定しているので比較的分かりやすい
(4) 費用	△ 約 8.9 億円の追加費用が必要	○ 約 1.6 億円の追加費用が必要
(5) 施設や収集体制の確保容易性	△ 処理対象量が多いため、収集体制の編成、選別・保管施設の委託先の確保等が困難	○ ・ 比較的少量のため、収集体制の編成はケース 1 よりは軽微 ・ 選別・保管施設の委託先の確保もケース 1 よりは容易
(6) 板橋区の 3R の理念から見た妥当性	○ ・ 事業者の負担に比べ、区の負担が重い ・ 容り法ルートの場合、資源循環方法を選択できない ・ 排出者に対する啓発効果も期待できる	○ ・ 材料リサイクルとなれば、ケース 1 よりも品質の高い資源循環になる ・ サーマルリサイクルによるエネルギー回収量が高い ・ 排出者に対する啓発効果も期待できる

### 1.3 トレイ・ボトル類の排出量・回収量

#### (1) トレイ・ボトル類の排出量

トレイ・ボトル類の平成 27 年度のごみへの排出量は、約 1,840 トンと推定されます。(参考資料 2 ページ・図表 3)

区民 1 人 1 日あたりでは、9.2g/人日です。

- 仮に、ごみに出されているトレイ・ボトル類の 7 割（約 1,300 トン）が資源として分別されれば、区のリサイクル率を 0.7%程度押し上げる効果があります。
- 食品トレイは、スーパーなどの販売店回収に排出されるものもあるため、資源に出される量は正確には分かりません。

#### (2) 平成 28 年度のトレイ・ボトル類モデル回収実績

区は平成 28 年 6 月から、大規模マンション約 200 か所（18,267 世帯）、一般の集積所約 50 か所（推定世帯数 622 世帯）でトレイ・ボトル類のモデル回収を開始しました。平成 29 年 3 月までの回収量は、トレイ・ボトル容器合計で、11.0 トンでした。

モデル回収実施世帯数から、全区で回収した場合の回収量を推計すると、208 トンとなります。

推計回収量の 208 トンは、区民 1 人 1 日あたりでは、1.02g/人日となり、(1) の推定排出量 9.2g/人日の 11%程度にとどまっています。

図表 2 モデル回収を全区に拡大した場合の推定排出量

	年間量(t)	1人1日あたり (g/人日)
ごみ中のトレイ・ボトル類 (平成27年度推定)	1,840	9.2
平成28年のモデル回収から全区 拡大推計した場合	207.7	1.02

#### (3) 考えられる施策の方向性

- モデル事業を全区に拡大しつつ、十分な PR・啓発事業を合わせて実施することにより、トレイ・ボトル類の回収量増大を目指す。

## 2 古紙類のリサイクル

### (1) 現状

- 新聞・雑誌類の消費量は減少傾向にありますが、一方でごみの中にはまだ資源化可能な古紙類が多く含まれています。
- 区では、昨年度から「紙パック」、「紙箱・紙袋・OA用紙」の回収を全区（集積所回収）で実施しています。回収量は、157.4t トンで、組成分析調査から推定される発生量の 2%程度にとどまっています。
- 雑がみ類の種類、分け方など認知度の向上が必要です。

### (2) 雑がみ（「紙パック」、「紙箱・紙袋・OA用紙」）の排出量

雑がみ（「紙パック」、「紙箱・紙袋・OA用紙」）の平成 27 年度のごみへの排出量は、約 7,800 トンと推定されます。（参考資料 2 ページ・図表 3）  
区民 1 人 1 日あたりでは、38.9g/人日です。

- 仮に、ごみに出されている雑がみ類の 7 割（約 5,500 トン）が資源として分別されれば、区のリサイクル率を 3.2%程度押し上げる効果があります。
- 平成 27 年度の段階で、区の集積所回収や集団回収では「雑がみ類」は雑誌などに挟んで出されているものもあり、資源に出される量は正確には分かりません。

### (3) 平成 28 年度の「紙パック」、「紙箱・紙袋・OA用紙」回収実績

平成 28 年度から全区で開始した「紙パック」、「紙箱・紙袋・OA用紙」の回収量は、157.4 トンでした。  
区民 1 人 1 日あたりでは、0.77g/人日となり、(2) の推定排出量 38.9g/人日の 2%程度にとどまっています。

図表 3 雑がみ類の平成 27 年度推定排出量と平成 28 年度回収実績

	年間量(t)	1人1日あたり (g/人日)
ごみ中の紙パック、紙箱・紙袋・OA用紙 (平成27年度推定)	7,803	38.9
平成28年度回収実績	157.4	0.77

### (4) 考えられる施策の方向性

- トレイ・ボトル類回収の全区拡大の機会を活用し、自治会・町会・集合住宅単位での説明、協力要請をすすめる。
- 「かたつむりのおやくそくハンドブック」でのわかりやすい記載を検討する。
- 集団回収の実施団体は増加している。しかし、回収量は減少しているため、「紙箱・紙袋・OA紙」といった雑がみ類の回収を併せて呼びかける。

### 3 その他資源リサイクルの推進

#### (1) 検討の視点

- 布類は集団回収、拠点回収で回収されていますが、ごみに出される量が圧倒的に多くなっています。
- 区民アンケート調査によると、布類や乾電池、廃食用油などの「拠点回収」に対する認知度は2割程度にとどまっています。

#### (2) 繊維や衣類の排出量

繊維・衣類の平成27年度のごみへの排出量は、年間約6,400トンと推定されます。(参考資料2ページ・図表3)

区民1人1日あたりでは、32.0g/人日です。

- 平成27年度の集団回収による回収量は310トン、拠点回収による回収量は74トンとなっています。
- まだ着ることのできる衣類は、リサイクルショップやフリーマーケットなどを利用して再使用に回されています。その量は不明です。

#### (3) 考えられる施策の方向性

- 布類などの拠点回収については、拠点の充実を図るとともに、区民への周知を徹底させる。
- 高齢世帯等を対象とした拠点回収品目の回収サービスを検討する。